

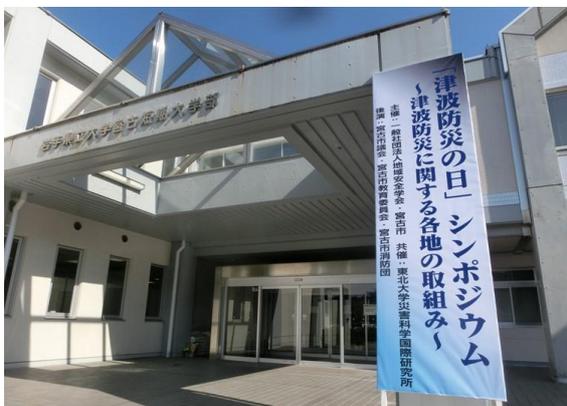
岩手県宮古市にて津波防災の日シンポジウムを開催しました(2014/10/19)

テーマ：東日本大震災、災害科学

場所：岩手県宮古市 岩手県立大学宮古短期大学部

10月19日(日)岩手県宮古市において、「津波防災の日シンポジウム ～津波防災に関する各地の取り組み～」が開催されました。宮古市における同イベントは毎年津波防災の日(11月5日)にちなみ、津波から大切な命を守るため、市民に地震・津波に関する必要な知識を習得する場を提供することにより、市全体の防災意識の高揚と「津波防災の日」の周知を図ることを目的に開催されています。今年度は地域安全学会の主催する東日本大震災以降の復興・防災を議論することを目的とする「東日本大震災連続ワークショップ」が同市において開催されることに伴い、本シンポジウムを主催：地域安全学会・宮古市、共催：東北大学災害科学国際研究所、後援：宮古市議会・宮古市教育委員会・宮古市消防団にて開催されることとなりました。

災害科学国際研究所の村尾 修 教授(地域・都市再生研究部門)は本シンポジウムを企画し、その趣旨説明として「三陸沿岸部における津波災害と復興」について講演を行いました。また基調講演では、南 正昭 教授(岩手大学)が「岩手三陸の復興まちづくり」と題して、宮古市での復興計画策定の経緯等について講演され、その後、照本清峰 研究主幹(人と防災未来センター)が「南海トラフ地震に備えるための実践的津波避難訓練の取り組み」と題して、和歌山県での地域に根ざした取り組みについて紹介しました。会場からは、宮古市と和歌山での地域性の違いなど活発な議論が交わされました。



会場・講演の様子(右上：村尾 教授、左下：南 教授、右下：照本 研究主幹)

文責：杉安和也(情報管理・社会連携部門)